

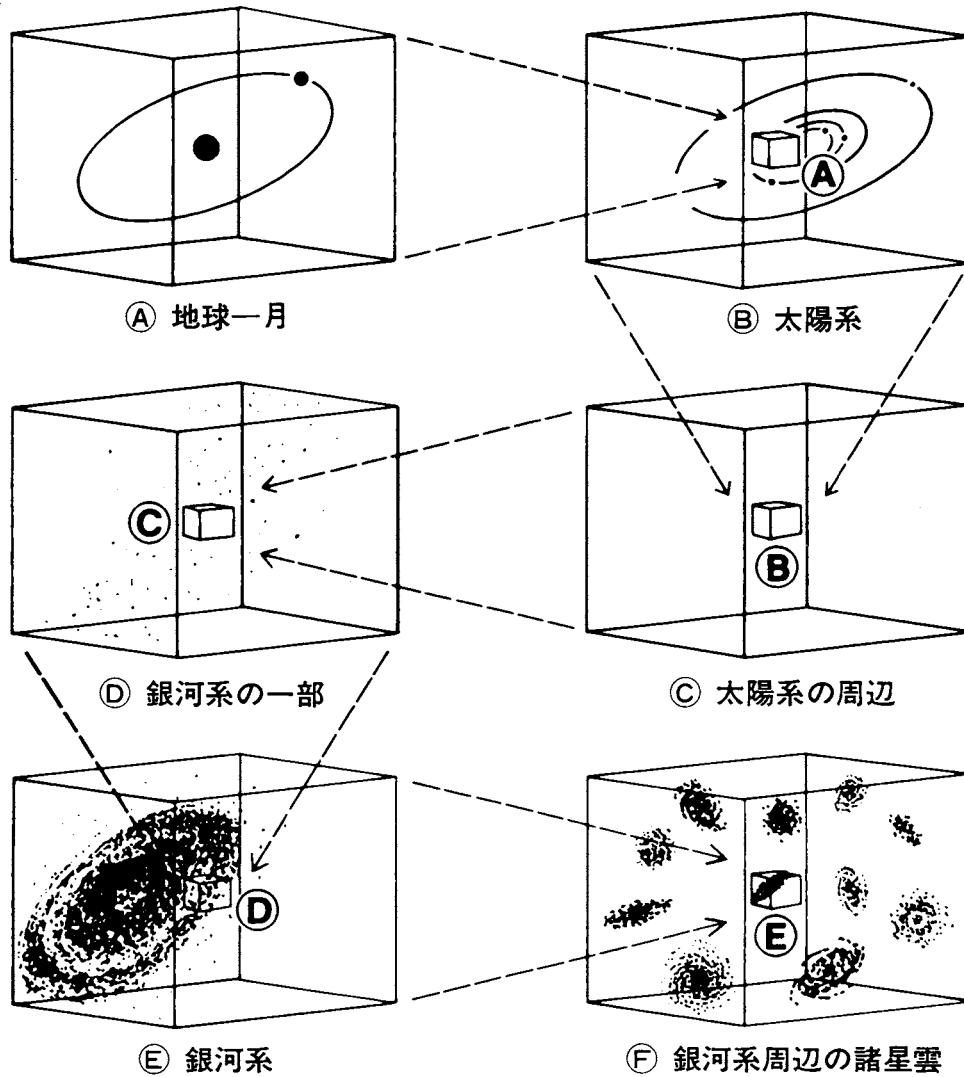
イエスと使徒たちの 生涯と教え

コース211, 212

オーバーヘッド
トランスペアレンシーセット

第2課 約束されたメシヤ

万物の創造主，キリスト



①地球と②太陽系，②太陽系と③その周辺，③太陽系周辺と④銀河系の一部，
④銀河系の一部と⑤銀河系全体，⑤銀河系と⑥その周辺の諸星雲との関係

第4課 「見よ，神の小羊」

「さて，イエスはみたまによって荒野に導かれた。神にお会いするためである。そして，四十日四十夜，断食をし，神と交わられたのち，空腹になられ，悪魔に試みられるにまかせられた。」（霊感訳マタイ4：1―2より和訳）

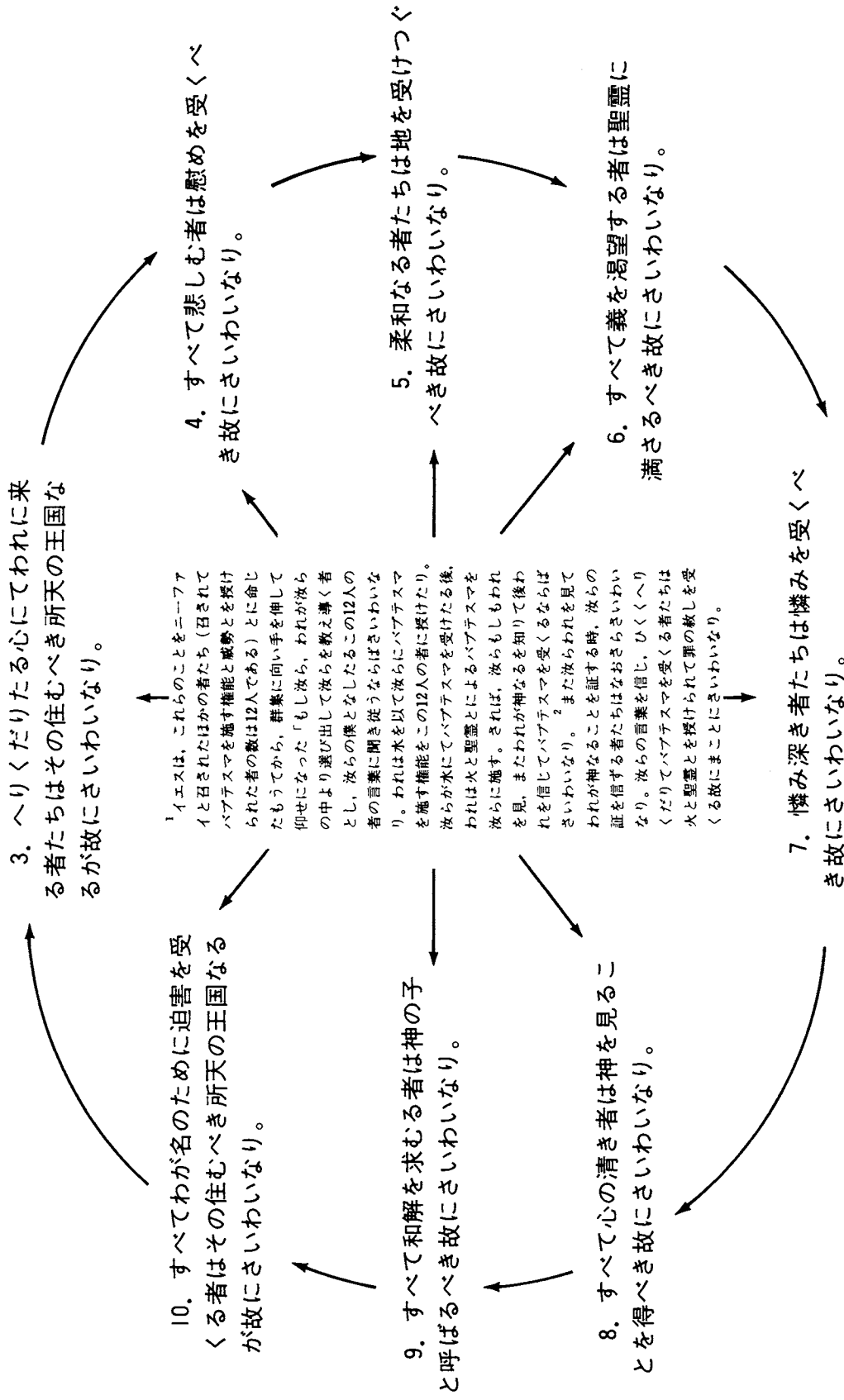
「エライヤス」(Elias)という言葉が持つ幾つかの意味

1. アブラハムの時代のエライヤス (Elias) という人物 (教義と聖約110：12)
2. ヘブライ語の “Elijah” のギリシヤ語訳
3. 偉大なみ業の基を据える備えの業 (エライヤスの霊気と教義)
4. この神権時代に神権に属ける鍵と権能を人々に授ける使命を持つ者に与えられる名称
すなわち称号
ノア(ガブリエル)(教義と聖約27：6—7)黙示者ヨハネ(教義と聖約77：9, 14)
5. バプテスマのヨハネ
6. 回復をもたらす御方，イエス・キリスト

イエスは私たちとは異なる誘惑をお受けになった

イエスがお受けになった 誘惑	イエスがお受けになった 誘惑の分類	誘惑に対する イエスの答え	私たちに与えられた イエスの教え
1. 石をパンに変えるよう にという誘惑	1. 肉体的な欲求に訴える 誘惑	1. 「人はパンだけで生き るものではない」(マタ イ4：4)	1. マタイ5：21—48
2. 天使が救ってくれるは ずだから、宮の頂上か ら飛び降りてみるよう にという誘惑	2. 高慢と虚栄心に訴える 誘惑	2. 「主なるあなただの神を 試みてはならない」(マ タイ4：7)	2. マタイ6：1—18； 7：1—6
3. サタンを礼拝すれば世 の国々を与えらるという 誘惑	3. 富と権力への誘惑	3. 「主なるあなただの神を 拝せ」(マタイ4：10)	3. マタイ6：19—34； 7：6—29

キリストのみもとに来る人々に与えられる祝福



10. すべてわが名のために迫害を受ける者はその住むべき所天の王国なるが故にさいわいなり。

9. すべて和解を求むる者は神の子と呼ばるべき故にさいわいなり。

8. すべて心の清き者は神を見ることを得べき故にさいわいなり。

¹イエスは、これらのことをニューファイトと召されたほかの者たち（召されてバプテスマを施す権能と威勢とを授けられた者の数は12人である）とに命じたもつてから、群衆に向い手を伸して仰せになった「もし汝ら、われが汝らの中より選び出して汝らを教え導く者とし、汝らの僕となしたるこの12人の者の言葉に聞き従うならばさいわいなり。われは水を以て汝らにバプテスマを施す権能をこの12人の者に授けたり。汝らが水にてバプテスマを受けたる後、われは火と聖霊とによるバプテスマを汝らに施す。されば、汝らもしもわれを見、またわれが神なるを知りて後われを信じてバプテスマを受くるならばさいわいなり。² また汝らわれを見てわれが神なることを証する時、汝らの証を信する者たちはおさらさいわいなり。汝らの言葉を信じ、ひくくへりくだりてバプテスマを受くる者たちは火と聖霊とを授けられて罪の赦しを受くる故にまことにさいわいなり。

4. すべて悲しむ者は慰めを受くべき故にさいわいなり。

5. 柔和なる者たちは地を受けつべき故にさいわいなり。

6. すべて義を渴望する者は聖霊に満さるべき故にさいわいなり。

7. 憐み深き者たちは憐みを受くべき故にさいわいなり。

たとえ話の活用と目的

イエスは、おもに次のふたつの目的でたとえ話を使われた。

- A. 教えるため
 - 1. 要点を明確にするため
 - 2. 思考を促すため
- B. 覆いをかけ、人に知られないようにするため
 - 1. 各人の靈性に応じて、真理を教える、あるいは教えるのを差し控えるため
 - 2. 豚に真珠を投げ与えることのないようにするため
 - 3. 真理が明らかになされた場合、それに従った生活をする力のない人が圧倒されてしま
うことのないようにという思いやりから
 - 4. ねたみを持ったユダヤ人の指導者たちから弟子たちを守るため

エルサレムへの勝利の入城から ベタニヤへ再び戻るまで

ベタニヤからベテパゲへの旅

(マタイ21：1)

ろばの子に乗っての入城

(マタイ21：1—7)

「ダビデの子に、ホサナ」と叫ぶ群衆

(マタイ21：8—9)

エルサレムのことを嘆かれる

(ルカ19：41)

宮で教えを説かれる

(ルカ19：48)

ベタニヤへ戻られる

(マルコ11：11)

実を結ばないちじくの木

(マタイ21：18—20)

再び宮を清めたもう

(マタイ21：12—13 ; ルカ19：45—46)

「ダビデの子に、ホサナ」と叫ぶ子供たち

(マタイ21：15)

ベタニヤに戻る

(マタイ21：16—17)

第21課 「偽善者よ、あなたがたは、わざわいである」

第22課 「あなたがたまたおいでになる時、どんな前兆がありますか」

エルサレムに戻ってから最後の晩餐まで

まことの福音を受け入れようとしない宗教指導者からの挑発

1. 祭司長たちや民の長老たち：「何の権威によって、これらの事をするのですか」
(マタイ21：23。21—22, 24—27節も参照)
ふたりの息子のたとえ話 (マタイ21：28—32)
邪悪な農夫のたとえ話 (マタイ21：33—44)
王子の婚宴のたとえ話 (マタイ22：1—10)
2. ヘロデ党の者たち：「カイザルに税金を納めてよいでしょうか」 (マタイ22：17。
18—21節も参照)
3. サドカイ人たち：「復活の時には、この女は、……だれの妻なのでしょうか」 (マタイ22：28。37—39節も参照)
4. パリサイ人たち：「どのいましめがいちばん大切なのですか」 (マタイ22：36。37—39節も参照)

イエスからの質問：「あなたがたはキリストをどう思うか。だれの子なのか」 (マタイ22：42。43—46節も参照)

イエス律法学者とパリサイ人を非難される (マタイ23)

数人のギリシャ人、イエスを訪れる (ヨハネ12：20—26)

天父、イエスが神の子であることを証される (ヨハネ12：27—36)

イエス、使徒たちと語られる (マタイ24；マルコ13；ルカ21；ジョセフ・スミス1)

弟子たちに与えられた最後のたとえ話

1. 十人のおとめのたとえ話 (マタイ25：1—13。教義と聖約45：56—59も参照)
2. タラントのたとえ話 (マタイ25：14—30)
3. 来るべき裁きについての教え (マタイ25：31—46)

過越の祭から晩餐まで

過越の祭

1. 杯をとり，祝福した後，これを飲む。
2. 手を洗う。
3. 苦菜を食べる。
4. この儀式の起源を家長が説明する。
5. 詩篇を歌う。
6. 杯をとり，祝福した後，これを飲む。
7. 種入れぬパンを分ける。
8. 種入れぬパンと苦菜を食べる。
9. 杯をとり，祝福した後，これを飲む。

過越の祭と聖餐の儀式には数々の類似点がある。聖餐の儀式では，イエスの肉と血を象徴する記念としてパンとブドウ液が聖められた。

最後の晩餐

1. ルカ22：7—14 ペテロとヨハネが過越の食事を準備した。
2. ルカ22：24—30 使徒は、自分たちの中でだれが一番えらいかで論争した。
3. ヨハネ13：1—17 イエスは自ら使徒の足を洗われた。
4. マタイ26：25 イエスは、裏切り者を名差しされた。
5. マタイ26：26—29 イエスは使徒に、聖餐の儀式の方法を示された。
6. マタイ26：30 イエスと使徒は賛美を歌った後、オリブ山にあるゲツセマネの園へ出かけられた。

第23課 「わたしがあなたがたを愛したように」

第24課 「わたしの平安をあなたがたに与える」

最後の晩餐からゲツセマネまで

過越の食事——最後の晩餐（マルコ14；ヨハネ13；ルカ22）

洗足の儀式（ヨハネ13）

席を離れるユダ（ヨハネ13：30）

新しい戒め（ヨハネ13：34）

助け主を遣わすとの約束（ヨハネ16：7）

大祭司としての主の祈り（ヨハネ17）

まことのぶどうの木の話（ヨハネ15：1—5，16）

「父よ、時がきました。」（ヨハネ17：1）

第25課 「わたしの思いではなく、みこころが成るようになってください」

第26課 「わたしはこの人になんの罪もみとめない」

ゲツセマネの園からはりつけの時まで

ゲツセマネの園（ルカ22：40—46。教義と聖約19も参照）

裏切りと捕縛（ルカ22）

大祭司カヤパとサンヒドリンを前にしたユダヤの裁き（マタイ26：57—58）

最初の告訴事由は人々を扇動したこと（マルコ14：55—59）

第二の事由は神への冒瀆

ユダの自殺（マタイ27：3—10）

ユダヤ総督ピラトの前での裁き（マタイ27：11—14）

告訴事由は反逆罪（ルカ23：1—7）

「わたしの国はこの世のものではない」（ヨハネ18：36）

ヘロデの前のイエス（ルカ23：4—11）

ピラトとの再度の対面（ルカ23：13—25）

「十字架につけよ……その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい」（マタイ27：22, 25）

ゴルゴタへ向かう途中の出来事（マタイ27：29—34）

十字架にかけられる（マタイ27：35—50）

イエスの言葉：「父よ、彼ら（イエスを十字架につけた兵卒たち）をおゆるしてください。

彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(靈感訳ルカ23：35より和訳)

息をひきとる（マタイ27：50）

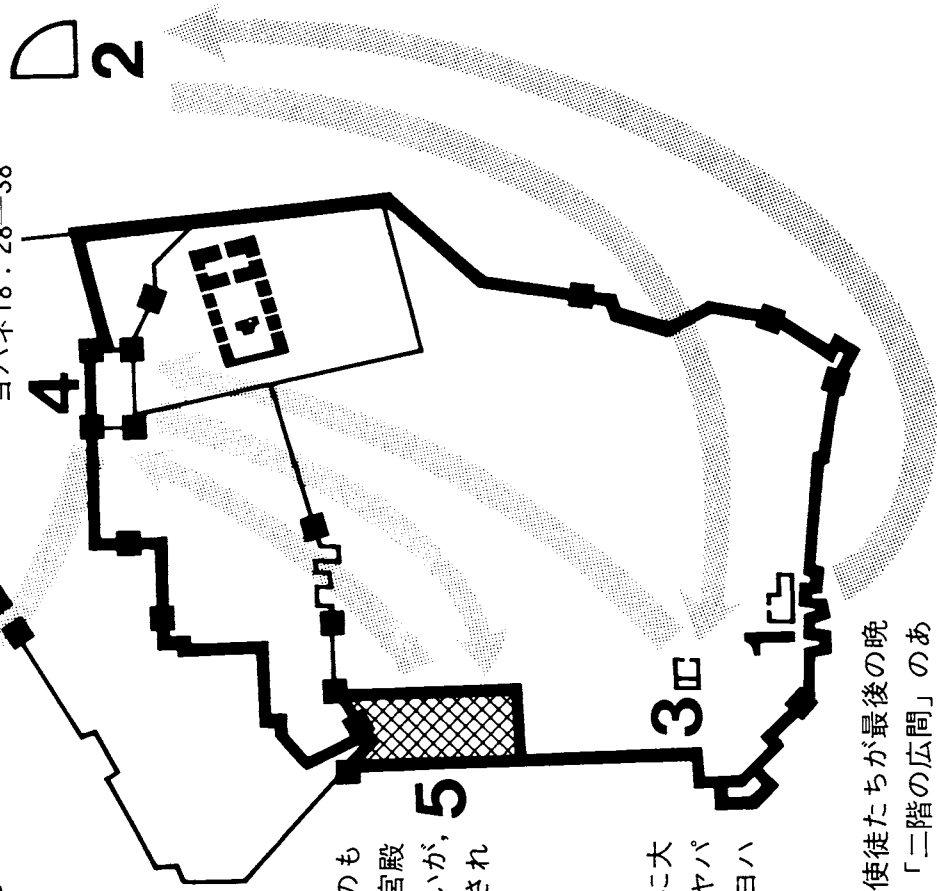
第26課 「わたしはこの人になんの罪もみとめない」

エルサレムでの 最後の出来事

十十十へ連れて行かれた。マタイ27：24
—35

イエスはピラトの官邸から刑場
イエスはカヤパの家から、ピ
ラトの官邸へ連れて行かれた。
ヨハネ18：28—38

イエスと11人の使徒たちはゲ
ツセマネの園へ行かれた。マ
タイ26：36—56。



ピラトはイエスをヘロデのもとへ送った。(ヘロデの宮殿の正確な位置は分らないが、エルサレムの西部と推定されている) ルカ23：8—12

イエスは、無抵抗のままに大祭司アンナス、次いでカヤパの家へ連れて行かれた。ヨハネ18：16—28

イエスと使徒たちが最後の晩餐をした「二階の広間」のある家の推定位置。

埋葬から復活まで

埋葬（マタイ27：57—61）

霊界への訪れ（ヨハネ5：25—29；Iペテロ3：18—20；4：5—6。ジョセフ・F・

スミス—死者の贖いに関する示現をも参照）

主，ニーフアイ人に語りかけたもう（IIIニーフアイ9：13—17）

主の復活（マタイ28；ヨハネ20）

主，復活直後，以下の人々にみ姿を現わされる。

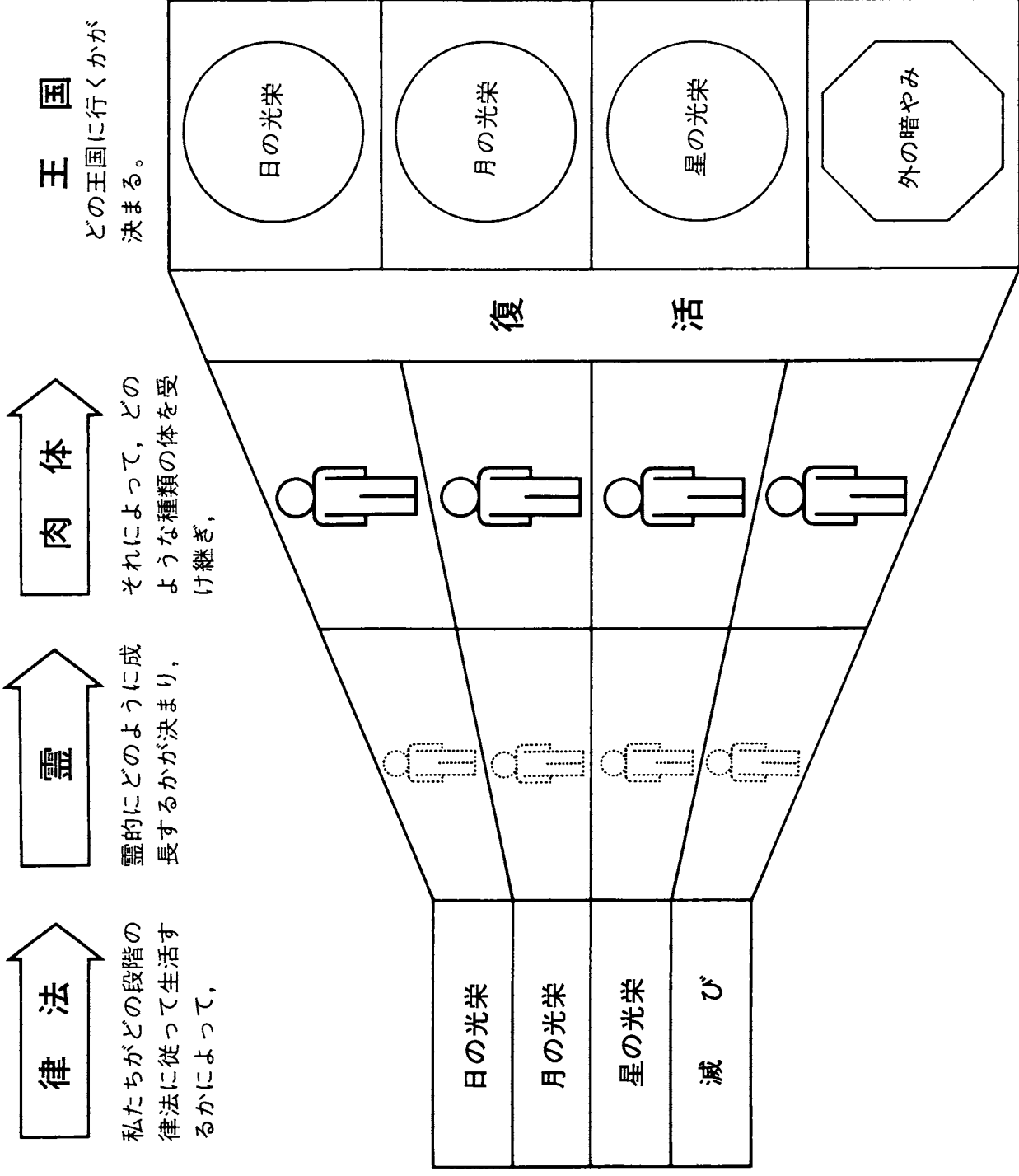
マグダラのマリヤ「わたしにすがりついてはならない。」（霊感訳ヨハネ20：17より和訳）

他の女性たち（ヤコブ，ヨハネの母，イエスの母マリヤを含む）（マタイ28：9—10）

シモン・ペテロ（Iコリント15：5）

第28課 「私は主が生きておられることを知っている」

「どんなからだをして来るのか」(Iコリント15:35)



復活されたイエス・キリストにまみえた人々

エマオに向かうふたりの弟子（ルカ24：13—32）

使徒たち（トマスは不在）（ヨハネ20：21—25）

11人の使徒（ヨハネ20：24—31；ルカ24：33—49）

ガララヤの海で漁をしていた弟子たち（「シモンよ、…この人たちが愛する以上に、私を愛するか」）（ヨハネ21：1—23）

ガララヤの山にいた500人以上の人（マタイ28：16—20；Iコリント15：6）

昇天の時に居合わせた使徒たち（使徒1：9—11）

ニーファイ人（IIIニーファイ11—18）

イスラエルの失われた支族（IIIニーファイ16：1—3）

ジョセフ・スミス（ジョセフ・スミス2：1—25）

ジョセフ・スミスとシドニー・リグドン（教義と聖約76：22—24）



アムピボリス ビリビ

テサロニケ

ネアポリス

アポロニヤ

トラキヤ

ビテニヤ

エーゲ海

●トロアス

●アドラミテオ

アジアの
7つの教会

●ベルガモ

●テアテラ

●サルデス

●ヒラデルヒヤ

●エペソ

●ヒエラポリス

●ラオヂキヤ

●コロサイ

ガラテヤ

カパドキヤ

●アンテオケ

●イコニオム

●ルステラ

パトモス島

●ミレト

パンフリヤ

キリキヤ

ルキヤ

●ベルガ

●デルベ

●タルソ

ロドス島

●ミラ

クレテ

良き港

パボス

クプロ

●サラミス

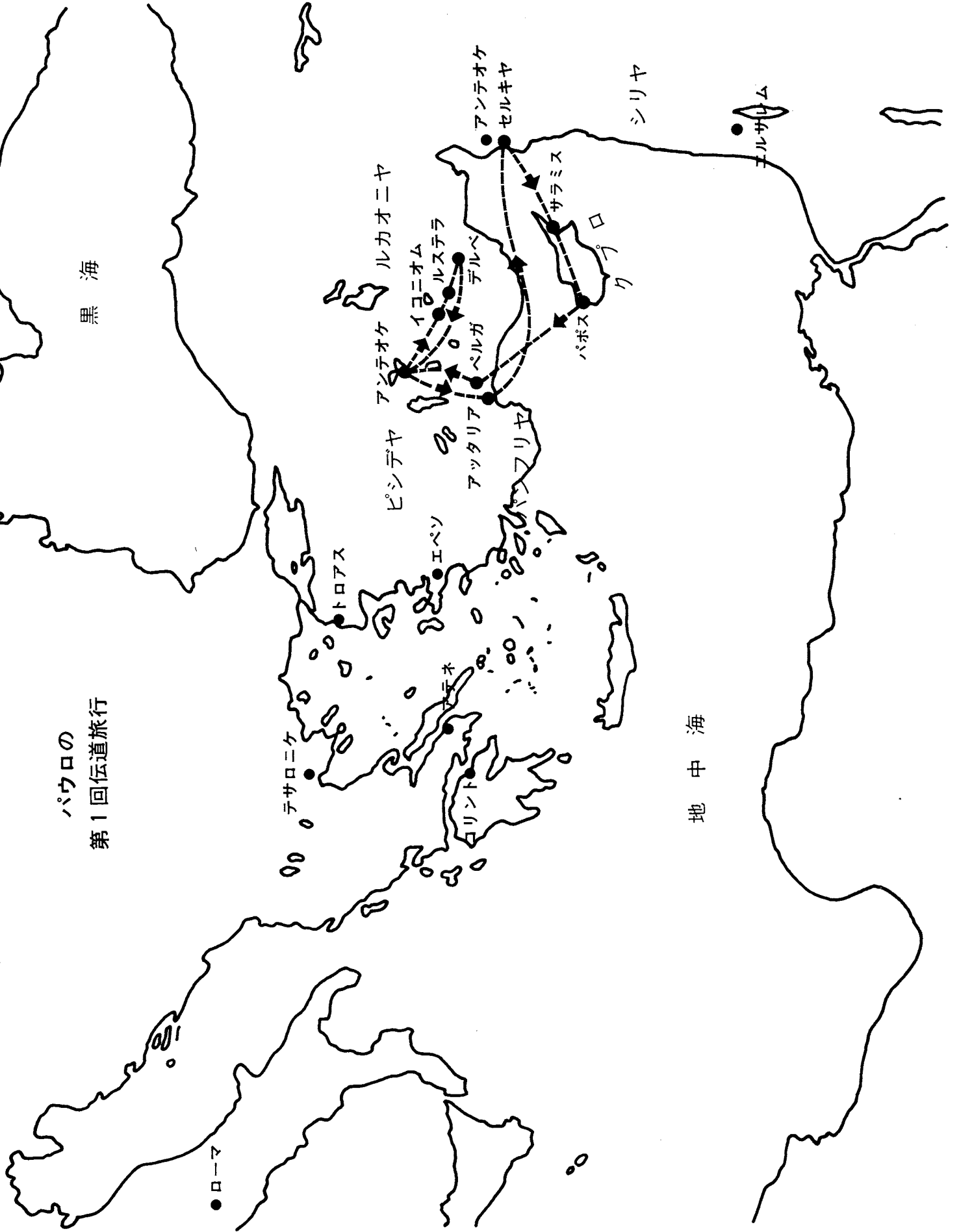
地中海

シリヤ

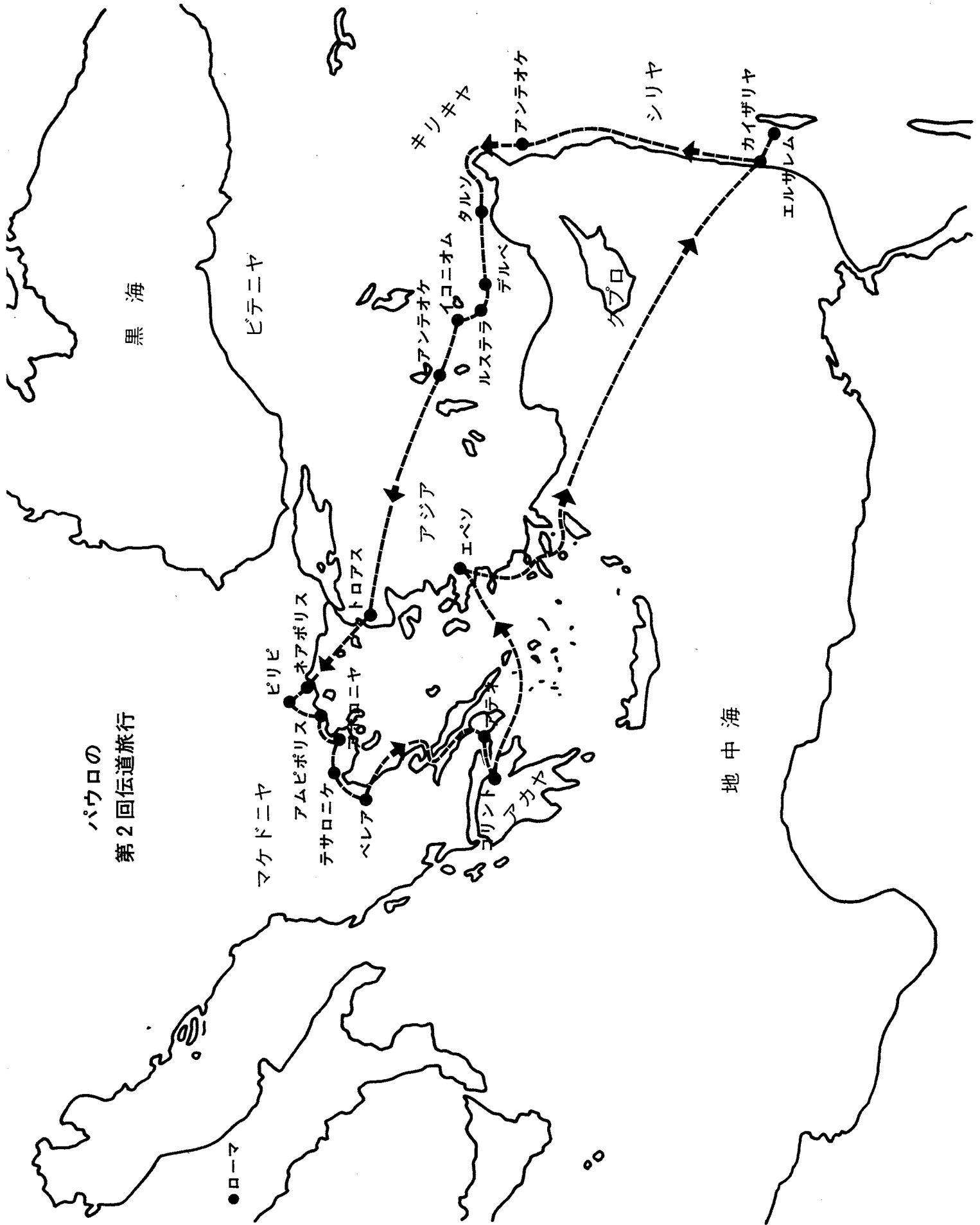
アレキサンドリヤ

●エルサレム

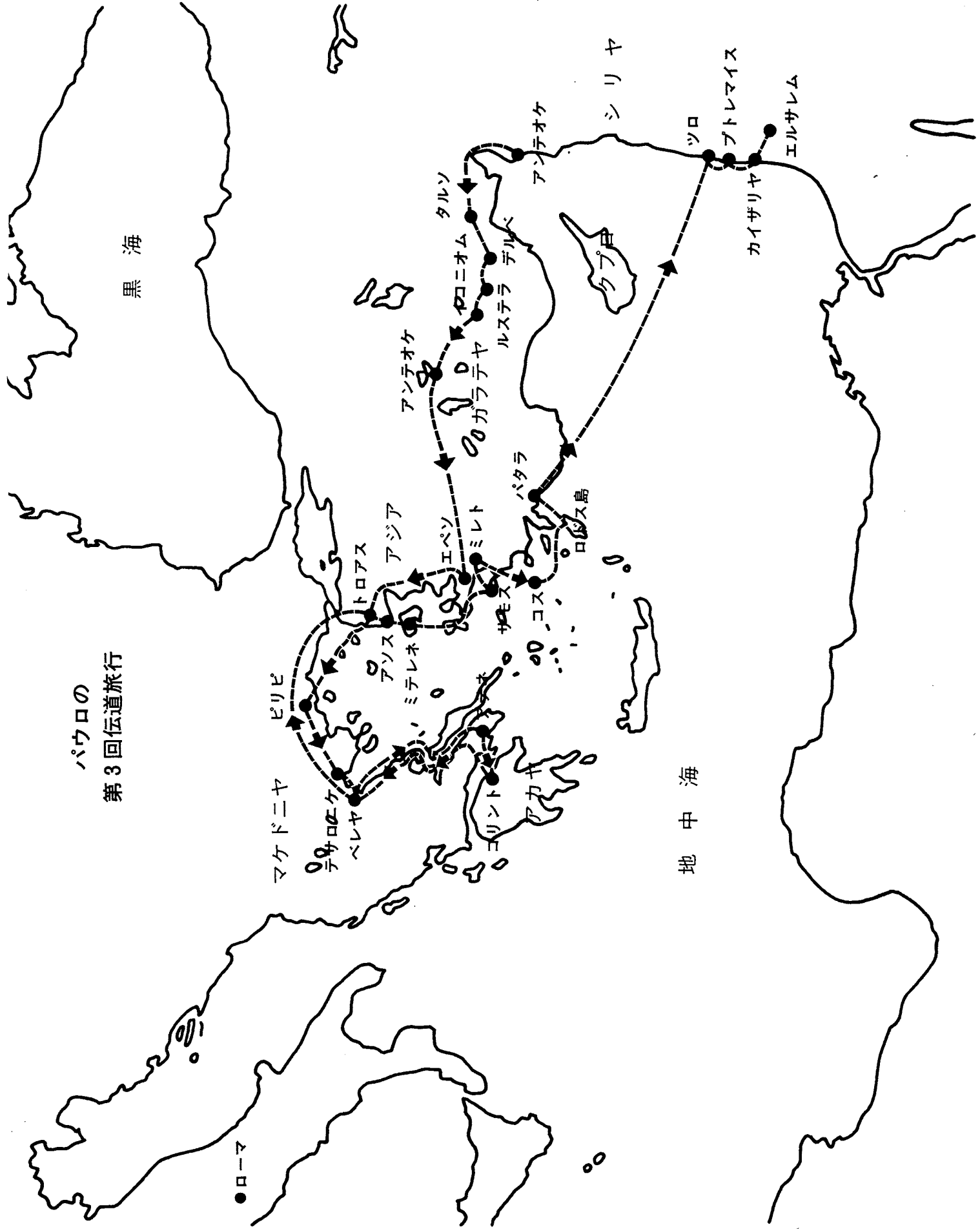
パウロの
第1回伝道旅行



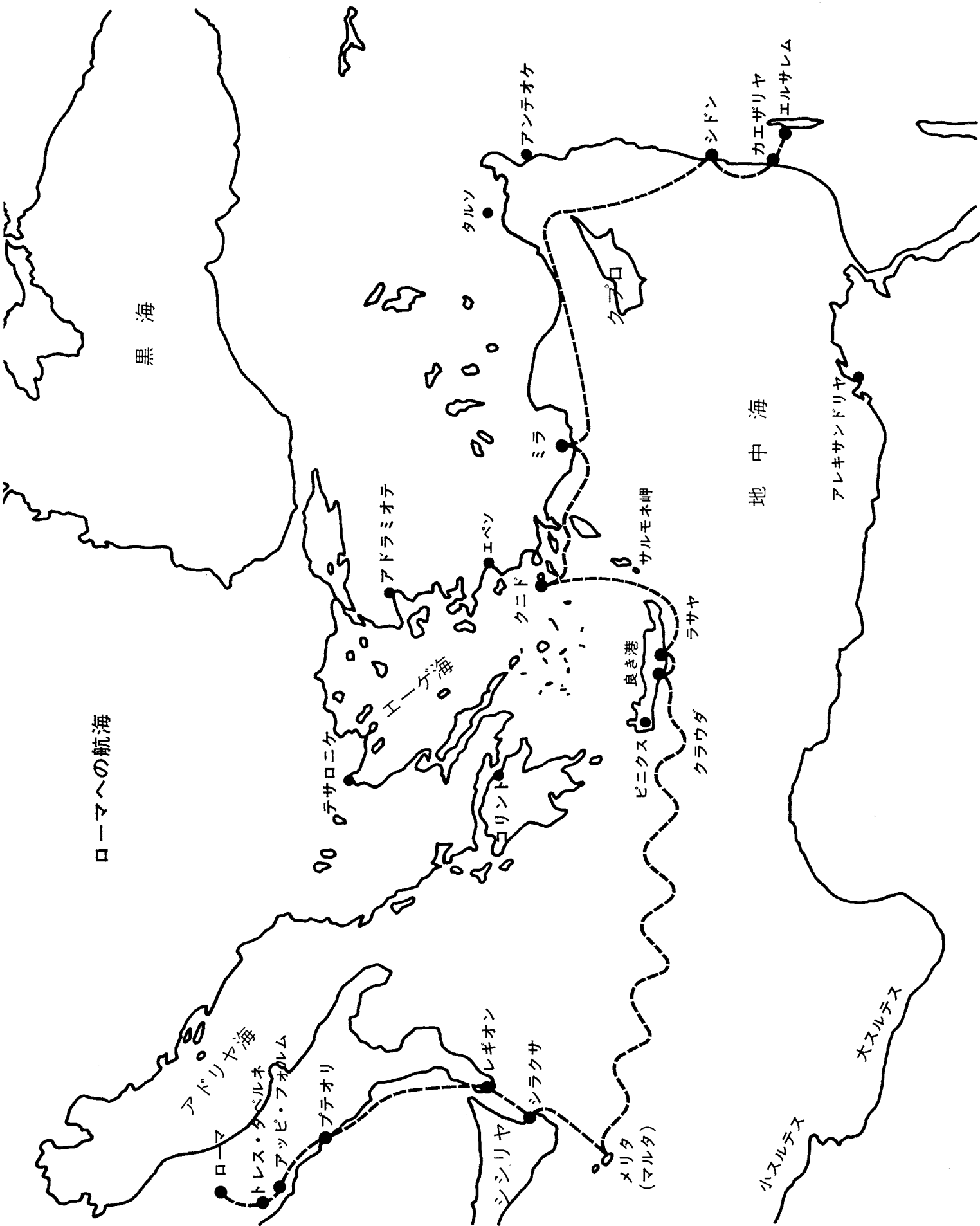
パウロの
第2回伝道旅行



パウロの
第3回伝道旅行



ローマへの航海



完成へのステップ（IIペテロ1：5—10）

